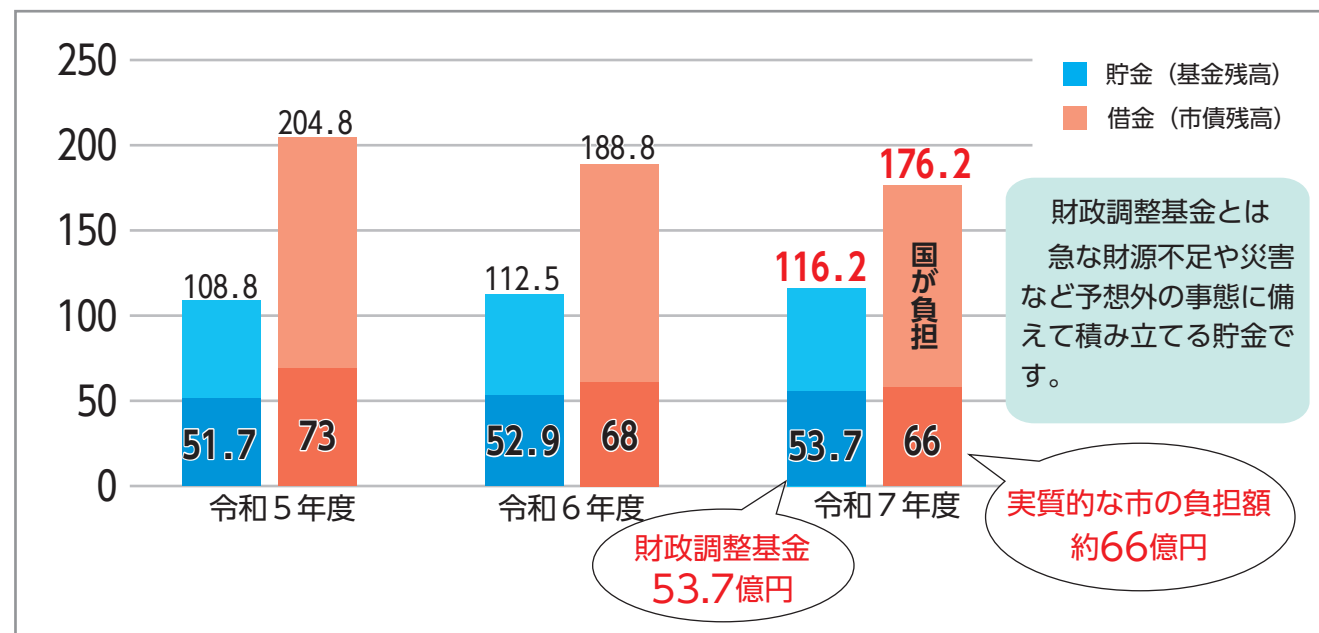


貯金と借金

一般会計の貯金（基金残高）は116億2,083万円となり、昨年度と比べて3億7,469万円増加しました。一方、借金（市債残高）は176億2,993万円となり、12億4,917万円減少しました。借金のうち、臨時財政対策債の100%や、合併特例債や緊急防災・減災事業債の70%などが国から地方交付税で措置されますので、**実質的な市の負担額は約66億円**となります。

なお、特別会計、企業会計を加えた市全体の貯金は130億3,149万円、借金は342億8,675万円です。

▶基金残高と市債残高（一般会計ベース／単位：億円）



財政のゆとりをみる指標

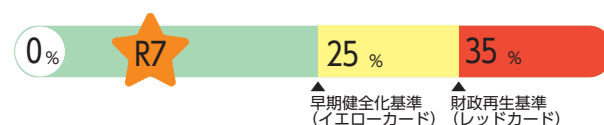
経常収支比率 **89.0%**



市税など経常的な収入に占める人件費や公債費、扶助費（社会保障費など）といった経常的な経費の割合を示すのが経常収支比率です。令和7年度は89.0%となっており、前年度から1.1%良化していますが、市の財政運営の弾力性はまだ十分とはいえ、厳しい状況が続いています。

財政の健全度をみる指標

実質公債費比率 **9.5%**



市の財政規模に対する借金返済の負担の大きさを示すのが「実質公債費比率」です。令和7年度は9.5%で国が定める早期健全化基準を下回り、前年度に引き続き「健全段階」となっており、**健全財政を維持**しています。

※財政の健全度を見る指標として、その他に「実質赤字比率」、「連結実質赤字比率」、「将来負担比率」がありますが、いずれもマイナスの数値（＝健全段階）となっています。

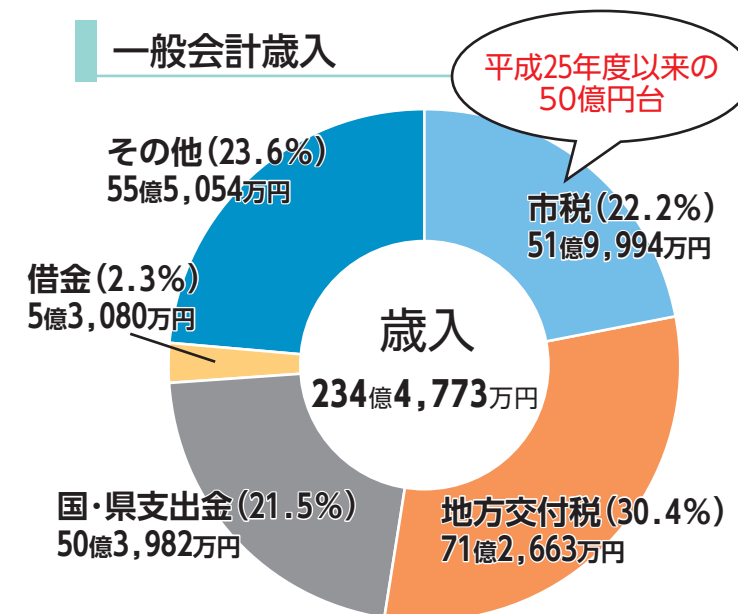
令和7年度 決算を報告します



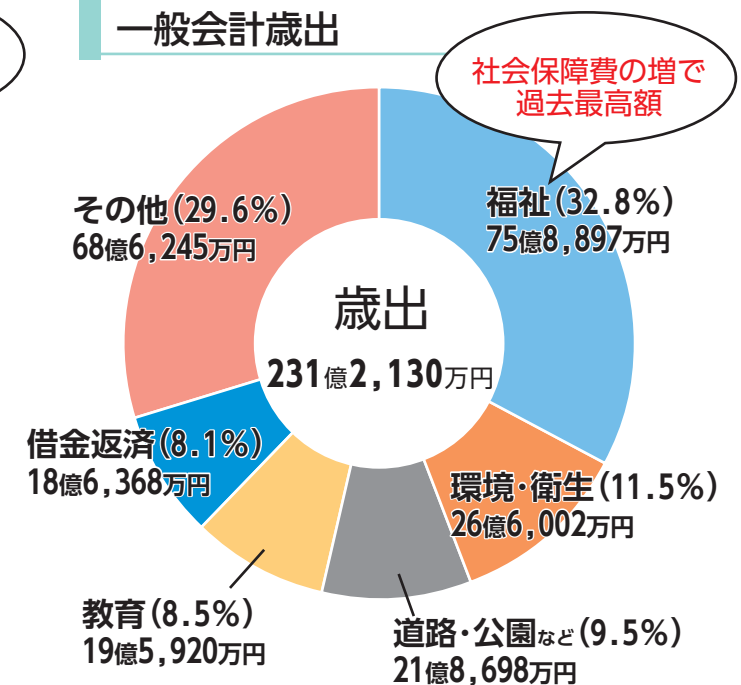
西脇市の令和7年度決算がまとまりました。会計別の決算とともに、市の財政状況を身近に感じていただけるよう、基金や市債の残高などの概要を紹介します。

▶問合せ 財政課（市役所内線 3014）

一般会計歳入



一般会計歳出



収支のバランス

一般会計では、歳入と歳出の差額から令和8年度へ繰り越すべき財源の1億5,779万円を差し引き、1億6,864万円の黒字となりました。

また、特定の事業を行うために、一般会計とは分けて設置されている特別会計と企業会計では、水道事業会計と病院事業会計で赤字となりました。特に病院事業会計では、物価や人件費の上昇に加え、入院患者の減少などにより、4億1,398万円の赤字となりました。

▶会計別決算

会計	歳入	歳出	差し引き
一般会計	234億4,773万円	231億2,130万円	3億2,643万円
特別会計			
国民健康保険	38億1,640万円	37億7,412万円	4,228万円
学校給食センター	3億2,797万円	3億2,797万円	0万円
老人保健施設	5億2,585万円	5億2,585万円	0万円
公営基地	493万円	493万円	0万円
介護保険	51億5,077万円	51億209万円	4,868万円
茜が丘宅地供給事業	3,229万円	3,229万円	0万円
後期高齢者医療	8億2,731万円	8億327万円	2,404万円
太陽光発電事業	6,308万円	6,308万円	0万円
企業会計			
水道事業会計	10億3,272万円	10億3,950万円	△678万円
下水道事業会計	17億4,823万円	17億4,819万円	4万円
病院事業会計	85億7,898万円	89億9,296万円	△4億1,398万円